

「Silent Sound」様

あなたは「Another World」から出来ている。わたしも「Another World」から出来ている。あなたとわたしは、お互いがそうであることを知らない双子なのだろうか。「映像のあなた」と「言葉の私」は、この世界の基準では双子らしくないけれど、「Another World」の時空間には、「映像と言葉の双子」が、何の不思議もなく、存在していることだろう。

「Another World」の放った音響や映像が、梅津元という人間の感覚器官に受容され、何がしかの反応がおこり、言葉の群が生成し、わたしを構成する成分となる。同時に、「Another World」の放った音響や映像は、梅津元から何かを連れ出し、連れ出された何かもまた、わたしを構成する成分となる。「Another World」からわたしができる過程において多くの方に協力をいただいた。ここでその方々への感謝の意を示したい。「Another World」について、3RENSA (Merzbow, duenn, Nyantora) の皆様、大野松雄さん、由良泰人さん、金村修さん、そして、この奇跡的なプログラムを素晴らしい形で実現して下さった関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。恵比寿映像祭ディレクターの田坂博子さんとプレス担当の平昌子さんは、梅津元に「Another World」のレビューの執筆を提案してくださいました。執筆に長期間を要し、レビュー記事の枠におさまらない長文となり、当初予定されていた『美術手帖』(web 版) への掲載は実現しませんでした。ようやく出現したわたしの姿を平昌子さんにお見せできないことが残念でなりません。(平昌子さんは 2020 年 1 月 29 日に急逝されました。ご冥福をお祈りいたします。)

「Another World」のレビューについては、artscape 編集長の福田幹さんから相談いただき、榎木野衣さんが素晴らしいレビューを書いてくださいました。宇川直宏さんは、DOMMUNE にて「Another World」の告知番組を配信してくださいました(恵比寿映像祭関係者の皆様の協力にも感謝します)。その番組に出演した梅津元は、この機会に「Another World」について様々に思考を巡らせ、その思考が、後に、わたしの生成に深く寄与しているようです。また、この番組のなかで、梅津元は、阿木譲さんの話題を出した時に、宇川さんと会話ができたと感謝しています。なぜなら、阿木譲さんの活動を紹介する複合プログラムの企画に関わったことを梅津元が duenn さんに伝えたことから、「Another World」に結実する企画について、duenn さんが梅津元に相談をしたからです。(阿木譲さんは 2018 年 10 月 21 日にお亡くなりになりました。わたしの最後に、夢の中で阿木譲さんに会えたと追記されているのは、そのためでしょうか。) その duenn さんを梅津元に紹介して下さったのは、金村修さんと小松浩子さんでした。ですから、小松浩子さんが「Another World」を契機として生み出した、あなた＝「Silent Sound」が出現する機会に、わたし＝「Another World—ANYWAY, WE DEPARTED」が出現することは、必然だったのです。

あなた＝「Silent Sound」を見ると、わたしは、「Another World」が、確かにこの世界に存在したのだと、その夢幻的な映像に身を委ねながら、感じる事ができる。事象そのものを記録することが本質的には不可能であるにも関わらず、それが可能だと思い込んでしまうのは、その事象の記録と思われている何かが、その事象そのものの似姿のように感じられるからだ。しかし、あなたは、「Another World」の似姿なのではなく、「Another World」が放出した音と光が、自らの存在をフィルムに刻印した証なのだ。「Another World」が放出した音響は、あなたには、存在しない、だからこそ、轟音のうちに忘却をもたらした「Another World」が、あなたによって呼び起こされ、奇跡的な瞬間が顕現する。わたし＝「Another World－ANYWAY, WE DEPARTED」もまた、「Another World」の似姿なのではなく、「Another World」が放出した音と光が、自らの存在を言葉の群として出現させた証なのだ。再び、あなた＝「Silent Sound」と、わたし＝「Another World－ANYWAY, WE DEPARTED」が、双子のような存在であることについて、夢想する。あなたとわたしは、ひとつの容器の中で、誰からに見られる時を、誰かに読まれる時を、ともに静かに待っている。

「Another World － ANYWAY, WE DEPARTED」より